



## 久保田さんに教わる豆知識

### 豆知識①

#### 湖だった奈良盆地

大昔の奈良盆地は「大和湖」とも呼ばれる湖でした。平城宮跡の西半分に湿地や池が多いのは、湖の水が北に流れていた名残です。この湿地は中秋のころになると南に帰るツバメのねぐらにもなります。

### 豆知識②

#### 大和川と呼ばれる川になったのはいつ？

万葉集にはたくさんの川が詠まれています。大和川という名前は出てきません。大和川と呼ばれるようになるのは江戸時代の頃のように。大和川は、上流での豪雨の度に下流では大きな洪水が起きました。江戸時代の中頃、1704年に大規模な川の付け替え工事が行われ現在の川筋になりました。

### 豆知識③

#### 「キュルキュルルルー」と鳴く河鹿蛙とは

万葉集の中に、佐保川や飛鳥川で蛙(かわず)の鳴き声を詠んだ歌があります。鹿の鳴き声のようにも聞こえるので河鹿蛙とも呼ばれてきました。今でも、吉野川やその支流では鳴き声を聞くことができます。昔は、どこにでもいた蛙ですが、大和川もそんな蛙のすむ川になるといいますね。



### 生き物でわかる大和川の水質

今から50年ほど前、子どもたちは大和川の中で魚を追いかけて遊んでいました。また、年配の方の中には大和川で泳いだ経験をお持ちの方も多いことと思います。井戸水を使う生活から水道を利用する生活に変わり、洗濯機の普及とともに大和川の汚れがひどくなりました。田畑で農薬を使い始めると川の生き物も激減していきました。しかし、そんな中でもわずかの生き物たちが生き続けていました。浄化

### これからも大和川とともに私たちにできることは？

「今日は川に行つて遊ぼう！」といえるような川になるといいですね。久保田さんが理想とする川は、川辺で夕涼みができ、ゲンジボタルが飛び交い、カジガエルのきれいな鳴き声が聞こえる川です。そのためには、ボランティアの清掃活動や行政だけに頼るのではなく、みんなが川を汚さないための知恵を出し合いながら活動する勇気が求められていると思います。川が汚れると海も汚れます。川が海を育てるともいいます。最近、海洋汚染が話題になっていますが、もし、海の環境が壊れると地球上では人は生活できなくなるといわれます。

センター、第二浄化センターの建設に伴って生活排水が川に入らなくなると水質は改善していましたが、一度川を汚すとなかなか元の状態になることは難しく年月もかかります。しかし、川に入って生き物の調査を行うたびに多くの生き物が復活していることがわかってきました。最近では、アユを見かけるようになってきました。川の中の生き物によって教えられることが多いですね」と久保田さん。

す。川の役割をもう一度見直さないとけません。「生き物たちと共に生きることができる社会を作りたいですね」と久保田さんは語ります。そうすると、昔のようなきれいな川の姿がよみえり、川は私たちの生活により身近な存在になることと思います。そんな社会を目指したいですね。



# あなたは「大和川」が どんな川か知っていますか？

奈良盆地の中央部を流れる大和川。今回は、長年、県内のほとんどの川で生き物調査に関わってこられた久保田さんと、大和川の姿を様々な視点から見つめてみます。



久保田 有さん

1947年生まれ、愛媛県出身、天理市在住。学生時代から生物や地理に興味を持ち、身近な野山や川で自然保護のあり方を模索。高校などで理科教育を担当。(財)日本自然保護協会 自然観察指導員などを経て、現在は、なら橋プロジェクト推進協議会メンバー。主に尼ヶ辻や山の辺で橋の栽培を担当。

## 奈良盆地の地形から見る大和川

「奈良盆地のどき方を知るには、若草山の頂上に立つとよくわかる」と大学の先生から教えていただいたことがあります」と久保田さん。生き物以外にも、身近な地形や石ころまで、そして、生活されてきた人々の歴史など、好奇心旺盛な久保田さんは、「いろんな視点で自然を見つめると面白いことが見つかりますよ」と語ります。

奈良盆地の成り立ちについて、地学の専門家は「近畿トラリアングル」という言葉で説明されます。近畿の中央部は、地殻変動によって三角形の区画に入り、その真ん中が奈良盆地に当たるといえます。奈良盆地を取り巻く「青垣の山並み」は、プレート運動によってできた地形といえます。その中で低く盆地になった場所を大和川が流れています。大和川は、大和高原にある貝ヶ平山(821.7m)を源流として、延長68kmの川で、奈良県の流域面積は712km<sup>2</sup>の一級河川です。奈良県の面積の約2割に当たり、その流域に県民の約9割が住んでいます。大和川は、奈良盆地を囲む山々から流れてくるたくさんの支流が河合町付近で合流して一つの川になります。これが河合町の名前の由来です。生駒山地と金剛山地の境目にできた「亀の瀬」という峡谷を通過して、大阪平野、最後は大坂湾に注いでいます。

## 大和川が教えてくれる奈良の歴史

河合町には崇神天皇の御代に建立された廣瀬大社という非常に古い神社があります。明治時代、河合町には「河合浜」と呼ばれる船着き場があり、水上交通や物資の集積地としてにぎわっていました。大和川の西側に位置する王寺町や三郷町とともに大和川の河運によって栄えました。龍田大社(三郷町)と廣瀬大社は、風水害などから流域の人々の生活を支え、静かに見守ってきた神社です。大和川をイメージした水彩画を指さしながら久保田さんはお話を続けます。大和川が運ぶ貴重な水と肥沃な土砂は、人々の命を守り田畑をうるおしてきました。廣瀬大社の五穀豊穣を願う「砂かけ祭」では、砂を水に見立てて田人や牛に扮した人が田植えのしぐさをしながら、参拝者と砂をかけあうにぎやかな祭です。



廣瀬大社の北側を流れる大和川(曾我川との合流地点)。「奈良の川は穏やかな川が多いですね」と久保田さん。



水田を守り、河川の氾濫を防ぐ水神を祀る神社として、古くから信仰されてきた河合町の「廣瀬大社」。一夜で沼地が陸地に変化し、橋が数多く芽生えたことから、この地に社殿を建てたという言い伝えがあります。現在も境内の奥には沼地が残っています。

# はじめに

奈良県では、河川整備計画に基づき実施する事業の進捗状況や社会・自然環境への影響を、各流域・圏域にて5年に1回のサイクルで点検・評価を実施しています。

その中で生物調査を実施しており、さまざまな生物を確認しています。ここでは大和川流域（奈良県域）の各支川で確認した生物（植物・鳥類・魚類・その他の水生動物）の一部を紹介します。

## ～ も く じ ～

### ■ 植 物

メリケンガヤツリ . . . . .	1	アレチウリ . . . . .	7
オギ . . . . .	2	ヤナギタデ . . . . .	8
ツルヨシ . . . . .	3	ミゾソバ . . . . .	9
セイタカヨシ . . . . .	4	オオカワヂシャ . . . . .	10
セイバンモロコシ . . . . .	5	オオキンケイギク . . . . .	11
ゴキヅル . . . . .	6	セイタカアワダチソウ . . . . .	12

### ■ 鳥 類

ヒドリガモ . . . . .	13	クサシギ . . . . .	27
マガモ . . . . .	14	イソシギ . . . . .	28
カルガモ . . . . .	15	オオタカ . . . . .	29
コガモ . . . . .	16	カワセミ . . . . .	30
カワウ . . . . .	17	チョウゲンボウ . . . . .	31
ゴイサギ . . . . .	18	セッカ . . . . .	32
アオサギ . . . . .	19	イソヒヨドリ . . . . .	33
ダイサギ . . . . .	20	キセキレイ . . . . .	34
チュウサギ . . . . .	21	ハクセキレイ . . . . .	35
コサギ . . . . .	22	セグロセキレイ . . . . .	36
オオバン . . . . .	23	ビンズイ . . . . .	37
ケリ . . . . .	24	シメ . . . . .	38
イカルチドリ . . . . .	25	イカル . . . . .	39
タシギ . . . . .	26	アオジ . . . . .	40

## ■ 魚 類

コイ . . . . .	41	ギギ . . . . .	51
ギンブナ . . . . .	42	カダヤシ . . . . .	52
オイカワ . . . . .	43	メダカ(ミナミメダカ) . . . . .	53
カワムツ . . . . .	44	ブルーギル . . . . .	54
ヌマムツ . . . . .	45	オオクチバス . . . . .	55
モツゴ . . . . .	46	ドンコ . . . . .	56
ムギツク . . . . .	47	カワヨシノボリ . . . . .	57
タモロコ . . . . .	48	シマヒレヨシノボリ . . . . .	58
カマツカ . . . . .	49	ウキゴリ . . . . .	59
ドジョウ . . . . .	50		

## ■ その他の水生動物

カワニナ . . . . .	60	シオカラトンボ . . . . .	68
ミドリビル . . . . .	61	アメンボ . . . . .	69
スジエビ . . . . .	62	ホッケミズムシ . . . . .	70
アメリカザリガニ . . . . .	63	コオイムシ . . . . .	71
サワガニ . . . . .	64	コガタシマトビケラ . . . . .	72
キイロサナエ . . . . .	65	コガムシ . . . . .	73
アオサナエ . . . . .	66	ゲンジボタル . . . . .	74
コオニヤンマ . . . . .	67		



植 物



花序

## メリケンガヤツリ *Cyperus eragrostis*

被子植物 > 単子葉類 > カヤツリグサ科

### 種の特徴

南米から北米西部原産の外来種で、繁殖力が強く水辺を中心に分布を拡大し、在来の湿性植物との競合、駆逐のおそれ大きい。

大きさ 高さは0.3～1m程度

生育場所 畑地、河川、溝、湿地など湿った場所を好む。

見られる時期 1年中みられる。

開花時期 6月～11月頃

増え方 種子または根茎で増える。

見分け方 茎の断面は角の丸い三角形。葉はつやがあり、細く（幅5～8mm）長い。花序は小穂が多数集まり球形となる。



## オギ *Miscanthus sacchariflorus*

被子植物 > 単子葉類 > イネ科

### 種の特徴

河川の中流から下流域で洪水時に水に浸かるやや高い河川敷に生育。  
1年から数年に一度は冠水するような砂地、冠水立地の指標。

大きさ 高さは1~2.5m

生育場所 泥の堆積した河原や、水辺の湿地などに生育する。

見られる時期 4月~10月頃

開花時期 7月~9月頃

増え方 小穂や節芽、根茎が伸びて茎を出す。

見分け方 一般にオギは湿地に生育し、ススキは乾いた場所に生息する。ススキのように株をつくらず、しばしば群生する。



## ツルヨシ *Phragmites japonicus*

被子植物 > 単子葉類 > イネ科

### 種の特徴

水の流れのある水際（特に砂礫地で不安定なところ）に生育。  
冠水立地、水際環境の指標。

大きさ	高さは1～1.5m
生育場所	砂礫河原の水の流れの弱い部分に生育する。
見られる時期	4月～11月頃
開花時期	8月～10月頃
増え方	主に地上をほう匍枝（ふくし）で増える。
見分け方	地上につる（匍枝）をはわせ、流水辺の砂礫地に生えることのでつるが地上に出ず、泥地に生えるヨシと区別される。



## セイタカヨシ *Phragmites karka*

被子植物 > 単子葉類 > イネ科

### 種の特徴

河川の上流から中流域の景観を特徴づける植物である。  
比較的安定した地下水位の高い立地の指標。

大きさ	高さは4～5m
生育場所	平地の水辺や湿地の周辺に生育する。
見られる時期	4月～11月頃
開花時期	8月～10月頃
増え方	種子と地下茎で増える。
見分け方	ヨシよりも大型。花は茎の先端に大型の円錐花序を付け、紫褐色。



## セイバンモロコシ *Sorghum propinquum*

被子植物 > 単子葉類 > イネ科

### 種の特徴

地中海地域のヨーロッパや中東原産の外来種で、河川堤防、道路沿いなどに繁茂し、大きな群落を作る。

大きさ	高さは1~2m
生育場所	河川中下流にかけての高水敷や堤防などに生育する。
見られる時期	3月~11月頃
開花時期	8月~10月頃
増え方	種子または地下茎で増える。
見分け方	茎は直立し大きな株を作り、穂が出る前はススキに似る。葉は真ん中に白い筋があり、葉の縁はなめらか。夏から秋に紫色の穂を出し、茎の先に円錐状につく。



## ゴキツル *Actinostemma tenerum*

被子植物 > 真正双子葉類 > ウリ科

### 種の特徴

### 重要種

日当たりの良い水辺、河畔、溜池畔などに生えるつる性植物。  
奈良県 RDB の希少種に指定されている。

大きさ	巻きひげでからむつる植物。茎は長さ 2m ほど。
生育場所	日当たりの良い水辺、河畔、溜池畔などに生育する。
見られる時期	4 月～11 月頃
開花時期	8 月～11 月頃
増え方	種子で増える。
見分け方	葉は互生し、三角状で先は細く、基部は左右に張り出して 1～2 対の突出があり心形となる。



## アレチウリ *Sicyos angulatus*

被子植物 > 真正双子葉類 > ウリ科

### 種の特徴

特定外来生物

北米原産の外来種で、特定外来生物に指定されている。  
つるを伸ばし他の植物を覆うように繁茂し、在来植物への影響が大きい。

大きさ	つる性植物で長さ数～十数 m
生育場所	河原の泥地や土手など開けた荒れ地に生育する。
見られる時期	5月～11月頃
開花時期	8月～9月頃
増え方	種子で増える。
見分け方	葉は五角形で先が尖る。葉は互生し、巻きひげは3分枝する。茎には柔らかい毛が密に生えている。果実には刺が密に生えている。



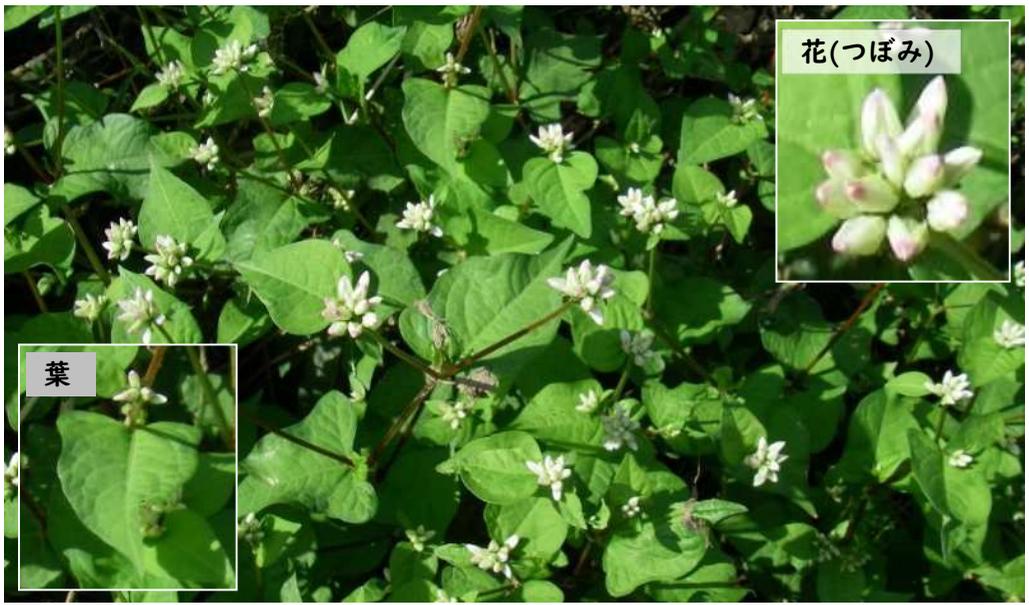
## ヤナギタデ *Persicaria hydropiper*

被子植物 > 真正双子葉類 > タデ科

### 種の特徴

増水による攪乱を頻繁に受けるような水辺に近い場所に生育する。一年草であるため大きな増水後には消失することもある。

大きさ	高さ 40～70cm 程度
生育場所	湿地、水辺、田の畦、水田などに群生する。
見られる時期	4 月～11 月頃
開花時期	6 月～10 月頃
増え方	種子で増える。
見分け方	葉は披針形～長卵形。花序は長さ 4～10cm で、茎の上部や枝先につき、先は垂れ、わずかに紅色を帯びた白い花をまばらにつける。



## ミソソバ *Persicaria thunbergii* var. *thunbergii*

被子植物 > 真正双子葉類 > タデ科

### 種の特徴

洪水などにより見えなくなるがその後に再生するサイクルを繰り返す。  
富栄養な川の水際に生育する水際環境の指標。

大きさ	高さ 30～80cm
生育場所	溝や水路、湿地、水田の畔などに生育する。
見られる時期	3 月～11 月頃
開花時期	7 月～10 月頃
増え方	種子で増える。
見分け方	葉は根元がほこ形で先がとがり特徴的。葉や花の咲いた状況がソバに似ていることからこの名がついた。枝先に、小さな花が集まって咲く。



## オオカワヂシャ *Veronica anagallis-aquatica*

被子植物 > 真正双子葉類 > オオバコ科

### 種の特徴

### 特定外来生物

欧州からアジア北部原産の外来種で、**特定外来生物**に指定されている。在来のカワヂシャと交雑し、遺伝的攪乱を起こすことが心配されている。

大きさ	高さは1m程度
生育場所	日当たりのよい河川の岸边、水田、湿地等に生育する。
見られる時期	1年中みられる。
開花時期	4月～9月頃
増え方	種子または根茎で増える。
見分け方	葉は縁に細かく目立たない鋸歯がある。全体が無毛。花は4深裂して鮮やかな青紫色であることなどで在来種のカワヂシャと区別される。



## オオキンケイギク *Coreopsis lanceolata*

被子植物 > 真正双子葉類 > キク科

### 種の特徴

特定外来生物

北米原産の外来種で、特定外来生物に指定されている。  
特に河川敷では河原固有の植物への影響が心配されている。

大きさ	高さは 30～70cm 程度
生育場所	河原、道端、線路際、海岸などに生育する。
見られる時期	4 月～11 月頃
開花時期	5 月～7 月頃
増え方	種子で増える。
見分け方	多数の小さな花が集まり直径 5～7cm の橙黄色の頭状花をつける。根生葉は花時もあり、長い柄があり、3～5 の小葉に分裂する。



## セイタカアワダチソウ *Solidago altissima*

被子植物 > 真正双子葉類 > キク科

### 種の特徴

北米原産の外来種で、荒れた土地などに侵入し、繁殖力が強く大群落をつくり、在来種との競合のおそれ大きい。

大きさ	高さは2～3m程度
生育場所	土手の斜面、河原のやや乾燥した場所等に生育する。
見られる時期	3月～11月頃
開花時期	10月～11月頃
増え方	種子または地下茎で増える。
見分け方	秋に茎の上部に多数の枝を出し、直径5mmほどの黄色い花を密に穂状につける。茎と葉は短い毛が密生してざらついている。

An orange oval with a slight 3D effect and a dark orange shadow on its bottom edge, centered on a white background.

鳥類



## ヒドリガモ *Anas penelope*

脊椎動物門 > 鳥綱 > カモ目 > カモ科

### 種の特徴

川では休息や採餌のために淵や湛水域などの広い水面が必要。日中に盛んに河川や湖上で餌を食べる。湛水域や淵の存在の指標。

大きさ	全長 47～49cm
生活場所	湖沼、川、池などの水辺。
見られる時期	奈良県では主に冬季にみられる（冬鳥）。
食べもの	主に植物の葉・茎・種子などを食べる。
繁殖期	4月～5月頃（北方で繁殖）
見分け方	オスは頭と胸は茶褐色で額がクリーム色、背中は灰色。メスは全体に褐色。オスとメスともにくちばしは鉛色で先端が黒い。「ピュー」と大きな声で鳴く。



## マガモ *Anas platyrhynchos*

脊椎動物門 > 鳥綱 > カモ目 > カモ科

### 種の特徴

### 重要種

夕方から夜にかけて水田などで餌を食べる。  
近畿 RDB のランク 3 に指定されている。

大きさ	全長約 59cm
生活場所	湖沼、川、池などの水辺。
見られる時期	奈良県では主に冬季にみられる（冬鳥）。
食べもの	主に植物の葉・茎・種子などを食べる。
繁殖期	4月～8月頃（北海道と本州の各地で少数が繁殖）
見分け方	オスは頭が緑色光沢のある黒色で、体はほぼ灰白色、胸はブドウ色で、くちばしは黄色い。メスは全体に茶褐色でくちばしがオレンジ色。



## カルガモ *Anas zonorhyncha*

脊椎動物門 > 鳥綱 > カモ目 > カモ科

### 種の特徴

川では休息のために淵や湛水域などの広い水面が必要。水田や湿地で餌を食べる。湛水域や淵の存在の指標。

大きさ	全長 61cm
生活場所	湖沼、川、池などの水辺。
見られる時期	1年中みられる（留鳥）。
食べもの	主に植物の葉・茎・種子などを食べる。
繁殖期	4月～7月頃（本州以南で繁殖）。
見分け方	オスとメスはほぼ同色で、見分けは難しい。体は全体的に黒褐色で足がオレンジ色。くちばしは黒色で先端が黄色い。



## コガモ *Anas crecca*

脊椎動物門 > 鳥綱 > カモ目 > カモ科

### 種の特徴

川では休息のために淵や湛水域などの広い水面が必要。夕方から夜に水田や畑で餌を食べる。湛水域や淵の存在の指標。

大きさ	全長 34～41cm
生活場所	湖沼、川、池などの水辺。
見られる時期	奈良県では主に冬季にみられる（冬鳥）。
食べもの	主にイネ科の植物の小さな実を食べる。
繁殖期	5月～8月頃（北方で繁殖）
見分け方	小型のカモで、オスは頭が赤褐色で目から後ろに緑色の帯がある。メスは全体に灰褐色で暗色の鱗斑がある。



## カワウ *Phalacrocorax carbo*

脊椎動物門 > 鳥綱 > カツオドリ目 > ウ科

### 種の特徴

水辺で魚類を主に捕食する河川生態系の上位種である。潜水して魚類を捕食するのである程度の水深が必要。やや水深のある水域の存在の指標。

大きさ	全長約 82cm
生活場所	主に河川部や湖沼などに生息する。
見られる時期	1年中みられる（留鳥）。
食べもの	主に魚類。
繁殖期	1年中（春先と秋が活発）
見分け方	大型で全身がほとんど黒色のウ類であり、大きさ、色ともウミウに似るが、背や翼には褐色みがあり、くちばしの基部の黄色い口角部分には丸みがある。



## ゴイサギ *Nycticorax nycticorax*

脊椎動物門 > 鳥綱 > ペリカン目 > サギ科

### 種の特徴

### 重要種

昼間は林の中でじっとしていて、夕方から川や池へ出かけていって魚を捕る夜行性のサギ。奈良県 RDB の希少種に指定されている。

大きさ	全長約 57cm
生活場所	平地、丘陵地のスギ林などにすみ、川などで餌をとる。
見られる時期	1年中みられる（留鳥）。
食べもの	主に魚で、水生昆虫、カエルなども食べる。
繁殖期	4月～8月頃（産卵期）
見分け方	成鳥は頭頂部と背、肩は緑青色の光沢のある黒色で、腹面は白い。幼鳥は全身灰褐色で、淡色の小斑がある。



## アオサギ *Ardea cinerea*

脊椎動物門 > 鳥綱 > ペリカン目 > サギ科

### 種の特徴

水辺で小魚などを捕食する。水中で勢いよくくちばしを突っ込んで餌をとるのである程度の水深が必要。やや水深のある水域の存在の指標。

大きさ	全長約 90cm
生活場所	大きい川や水田、海岸の干潟などの水辺。
見られる時期	1年中みられる（留鳥）。
食べもの	魚の他に昆虫やカエルも食べる。
繁殖期	4月～7月頃（産卵期は4月～5月）
見分け方	全身が青みを帯びた灰色の大きなサギ。目の上から後頭部に黒い線がある。日本産のサギ類のうち最大。



## ダイサギ *Ardea alba*

脊椎動物門 > 鳥綱 > ペリカン目 > サギ科

### 種の特徴

水辺で小魚などを捕食する。水中で勢いよくくちばしを突っ込んで餌をとるのである程度の水深が必要。やや水深のある水域の存在の指標。

大きさ	全長約 90cm
生活場所	水田や川、湖沼など。
見られる時期	1年中みられる（留鳥）。
食べもの	魚、両生類、ザリガニ、昆虫などを捕食する。
繁殖期	4月～9月頃
見分け方	チュウサギと似るが、チュウサギは体長が小さい。またダイサギはくちばしが長く、また眼下にある口角の切れ込みが眼より後ろまで食い込むことで判別できる。



## チュウサギ *Egretta intermedia*

脊椎動物門 > 鳥綱 > ペリカン目 > サギ科

### 種の特徴

### 重要種

水田に多く、コサギとダイサギの中間の大きさ。夏鳥として渡来。  
環境省 RL の準絶滅危惧種、奈良県 RDB の希少種等に指定されている。

大きさ	全長約 63～72cm
生活場所	河川や湿地、水田などに生息する。
見られる時期	4～11 月頃（夏鳥）
食べもの	主に魚や両生類で、水生昆虫なども食べる。
繁殖期	4 月～9 月中旬頃
見分け方	全身が白、足は全体が黒く、眼先が黄色。ダイサギに似るが、体長が小さいこと、くちばしが短いこと、眼下に入る口角の切れ込みが眼の真下で止まるところで区別可能。



## コサギ *Egretta garzetta*

脊椎動物門 > 鳥綱 > ペリカン目 > サギ科

### 種の特徴

水辺で小魚などを捕食する。水中で勢いよくくちばしを突っ込んで餌をとるのである程度の水深が必要。やや水深のある水域の存在の指標。

大きさ	全長約 61cm
生活場所	大きい川や水田、海岸の干潟などの水辺。
見られる時期	1年中みられる（留鳥）。
食べもの	魚の他にカエルやアメリカザリガニなども食べる。
繁殖期	4月～9月頃（他のサギ類と集団繁殖することが多い）
見分け方	全身が白色で一年中くちばしが黒いサギ。足は黒く、先が黄色いことが特徴。日本産のよく見られるサギ類（アオサギ・ダイサギ・コサギ）のうち最も小型。



## オオバン *Fulica atra*

脊椎動物門 > 鳥綱 > ツル目 > クイナ科

### 種の特徴

### 重要種

全身が黒くずんぐりした体形で、額板とクチバシが白いクイナ類。近畿 RDB のランク 3 に指定されている。

大きさ	全長約 39cm
生活場所	湖沼、池、河川、水田など淡水域。
見られる時期	奈良県では主に冬季にみられる（冬鳥）。
食べもの	水草の葉、茎、種子、昆虫、貝、甲殻類など。
繁殖期	4月～8月頃
見分け方	頭部や頸部は黒い羽毛で被われ、頭頂や後頸には光沢がある。胴体は灰黒色の羽毛で被われ、上面は青みがかかる。尾羽の色彩は黒褐色。



## ケリ *Vanellus cinereus*

脊椎動物門 > 鳥綱 > チドリ目 > チドリ科

### 種の特徴

重要種

チドリの仲間の脚の長い鳥。  
環境省 RL の情報不足に指定されている。

大きさ	全長約 36cm
生活場所	草原、広い川原、水田、畑などに生息。
見られる時期	1年中みられる（留鳥）。
食べもの	昆虫やカエルなどの主に動物質の餌をとる。
繁殖期	3月～6月頃（産卵期）
見分け方	大型のチドリ類で、黄色い足は長く目立つ。飛ぶと黒と白の翼の模様が目立つ。繁殖期には「ケッ、ケッ」と鳴きながら飛んでいることが多い。



## イカルチドリ *Charadrius placidus*

脊椎動物門 > 鳥綱 > チドリ目 > チドリ科

### 種の特徴

### 重要種

水際を歩き小さな虫を捕食する。採餌可能な浅い水際環境を指標。  
奈良県 RDB の希少種、近畿 RDB のランク 3 に指定されている。

大きさ	全長 19～21cm
生活場所	河川、湖沼などの周囲に生息。河川の中流～上流域で多く見られ、海岸や干潟で観察されることは稀である。
見られる時期	1年中みられる（留鳥）。
食べもの	動物食で、昆虫類、節足動物、ミミズなどを食べる。
繁殖期	3月～7月頃
見分け方	頭頂部と背面は灰褐色、腹面は白い羽毛で覆われる。くちばしから眼を通り側頭部へ続く筋模様（過眼線）が入る。



## タシギ *Gallinago gallinago*

脊椎動物門 > 鳥綱 > チドリ目 > シギ科

### 種の特徴

### 指標種

水際を歩き小さな虫を捕食する。採餌可能な浅い水際環境を指標。  
奈良県 RDB の希少種、近畿 RDB のランク 3 に指定されている。

大きさ	全長約 27cm。
生活場所	水田などの内陸の湿地に生息。
見られる時期	奈良県では主に冬にみられる（冬鳥）。
食べもの	ユスリカなどの小さい虫や種子を食べる。
繁殖期	8月～5月頃
見分け方	まっすぐで長いくちばしを持ち、背中の模様が枯れ草に似る。顎から胸にかけて橙色の地に暗褐色の横縞が並ぶ。飛ぶと次列風切後縁に白い線が目立つ。



## クサシギ *Tringa ochropus*

脊椎動物門 > 鳥綱 > チドリ目 > シギ科

### 種の特徴

### 重要種

水際を歩き小さな虫を捕食する。採餌可能な浅い水際環境を指標。  
奈良県の希少種、近畿 RDB のランク 3 に指定されている。

大きさ	全長約 22cm
生活場所	非繁殖期は湖沼、河川、水田、湿地、繁殖期は湿地。
見られる時期	奈良県では主に冬にみられる（冬鳥）。
食べもの	主に動物食で、水深の浅い場所で、昆虫類や甲殻類、貝類などを捕食する。植物の種子を食べることもある。
繁殖期	4月～8月上旬頃
見分け方	頭部から背中、翼にかけての体の上面が緑色味がかつた黒褐色で、背と翼には細かい白い斑紋が散在する。



## イソシギ *Actitis hypoleucos*

脊椎動物門 > 鳥綱 > チドリ目 > シギ科

### 種の特徴

### 重要種

水際を歩き小さな虫を捕食する。採餌可能な浅い水際環境を指標。  
奈良県 RDB の希少種、近畿 RDB のランク 2 に指定されている。

大きさ	全長約 20cm
生活場所	海岸の河口や干潟、河川の中下流域。
見られる時期	1 年中みられる（留鳥）。
食べもの	ユスリカなどの小さい虫や種子を食べる。
繁殖期	4 月～8 月上旬頃
見分け方	尾をよく振る小型のシギで、飛ぶと白い翼帯が目立つ。 腹側は白色。くちばしは長く細く、色は黒く基部はうすくなる。眼の前後に暗色の線がある。



## オオタカ *Accipiter gentilis*

脊椎動物門 > 鳥綱 > タカ目 > タカ科

### 種の特徴

### 重要種

環境省 RL の準絶滅危惧、奈良県 RDB の希少種等に指定されている。

大きさ	全長約 50～56cm
生活場所	亜高山から平地の林に生息。
見られる時期	1年中みられる（留鳥）。
食べもの	小鳥～中、大型の鳥。ネズミやウサギなども食べる。
繁殖期	4月中旬～5月上旬頃（産卵期）
見分け方	大きさはカラス程度。顔には眼をまたぐ黒い線とその上に白い線がある。背側は青味のある薄墨色で、下面は白っぽい。



## カワセミ *Alcedo atthis*

脊椎動物門 > 鳥綱 > ブッポウソウ目 > カワセミ科

### 種の特徴

### 重要種

潜水して魚類を捕食するため、やや水深のある水域の存在の指標。  
近畿 RDB のランク 3 に指定されている。

大きさ	全長約 17cm
生活場所	山地から平地の川、池、湖などの水辺にすむ。
見られる時期	1 年中みられる（留鳥）。
食べもの	魚の他、エビ、オタマジャクシなどを食べる。
繁殖期	3 月～8 月頃
見分け方	目立って長いくちばし、大きな頭、コバルト色の背中、 橙色の腹をしている。



## チョウゲンボウ *Falco tinnunculus*

脊椎動物門 > 鳥綱 > ハヤブサ目 > ハヤブサ科

### 種の特徴

### 重要種

奈良県 RDB の希少種、近畿 RDB のランク 3 に指定されている。

大きさ 全長約 33～39cm

生活場所 平地から山地の崖地、農耕地や河川敷など広範囲。

見られる時期 1年中みられる（留鳥）。

食べもの 主にネズミなどの小型の哺乳類。小鳥や両生類なども食べる。

繁殖期 4月初旬（産卵期）

見分け方 オスは頭が青灰色で背から翼上面は茶褐色で黒い斑がある。メスは頭から体上面は茶褐色で黒色の斑がある。頬に黒いひげ状模様がある。



## セッカ *Cisticola juncidis*

脊椎動物門 > 鳥綱 > スズメ目 > セッカ科

### 種の特徴

### 重要種

奈良県 RDB の希少種に指定されている。

大きさ	全長約 12cm
生活場所	海岸や河岸の草生地、水田、麦畑、山地の草原など。
見られる時期	奈良県では主に夏にみられる（夏鳥）。
食べもの	昆虫、クモなどを食べる。
繁殖期	5月～9月上旬頃
見分け方	地味な色彩で小型。全体的に黄褐色上面には黒褐色の縦斑が多数ある。繁殖期には頭上の縦斑はなくなり黒褐色になる。眉斑白い。尾羽の先は丸く、開くと扇状。



## イソヒヨドリ *Monticola solitarius*

脊椎動物門 > 鳥綱 > スズメ目 > ヒタキ科

### 種の特徴

海岸の崖地に生息しているのが普通ですが、時に海岸から離れた崖地、さらに人工的な建物にも生息することがある。

大きさ	全長約 23cm
生活場所	崖や岩場のある海岸に生息する。
見られる時期	1年中みられる（留鳥）
食べもの	昆虫やフナムシのような小動物。
繁殖期	3月～6月頃
見分け方	オスは青と赤の色彩で見分けやすい。頭部や背部が暗青色。メスは全身褐色で下面には波模様があり、体形や尾を振る動作にも特徴がある。



## キセキレイ *Motacilla cinerea*

脊椎動物門 > 鳥綱 > スズメ目 > セキレイ科

### 種の特徴

平地から山地の河川、溪流などの水辺を中心に、耕作地などにも生息し、地上を活発に歩き回る。採餌可能な浅い水際環境を指標。

大きさ	全長約 20cm
生活場所	河川や溪流の岸や中州、水田など低地の水辺。
見られる時期	1年中みられる（留鳥）。
食べもの	主に水辺の昆虫（カゲロウ類やカワゲラ類）を食べる。
繁殖期	4月～8月頃
見分け方	尾が長く、地上を歩きながら餌を食べる。体型が細い。オスは頭から背が灰色で、のどが黒い。体の下面と腰が黄色い。



## ハクセキレイ *Motacilla alba*

脊椎動物門 > 鳥綱 > スズメ目 > セキレイ科

### 種の特徴

海岸、河川、湖沼など水辺を中心に、畑や市街地にも生息し、地上を活発に歩き回る。採餌可能な浅い水際環境を指標。

大きさ	全長約 21cm
生活場所	海岸、河口、広い川の岸や中州、水田など低地の水辺。
見られる時期	1年中みられる（留鳥）。
食べもの	主に水辺の昆虫やクモ類を食べる。
繁殖期	5月～7月頃
見分け方	尾が長く、尾を振りながら地上を歩く。顔は白く、黒い線が横切る。繁殖期のオスは背中の色が黒色になる。



## セグロセキレイ *Motacilla grandis*

脊椎動物門 > 鳥綱 > スズメ目 > セキレイ科

### 種の特徴

河原のある河川を好み、地上や水辺の砂礫地を活発に歩き回る。都会でも近くに水辺があれば生息できる。採餌可能な浅い水際環境を指標。

大きさ 全長約 21cm

生活場所 河原とその周辺、集落、田畑など開けた環境。

見られる時期 1年中みられる（留鳥）。

食べもの 主に水辺の昆虫やクモ類を食べる。

繁殖期 3月～6月頃

見分け方 頭から胸、背にかけて黒く、額から眉にかけては白い。足、くちばしは黒い。下胸から腹部は白い。メスは背がやや灰色味がかかる。



## ビンズイ *Anthus hodgsoni*

脊椎動物門 > 鳥綱 > スズメ目 > セキレイ科

### 種の特徴

### 重要種

奈良県 RDB の希少種に指定されている。

大きさ	全長約 14～15cm
生活場所	草地や明るい林。
見られる時期	奈良県では主に冬季にみられる（冬鳥）。
食べもの	昆虫類、植物の種子。
繁殖期	5月～8月頃
見分け方	他のセキレイ類と同様によく尾を上下に振る。頬に淡褐色の斑があり、側に黒点がある。眉斑は明瞭で上に黒い縁取りがある。



## シメ *Coccothraustes coccothraustes*

脊椎動物門 > 鳥綱 > スズメ目 > アトリ科

### 種の特徴

本州では主に冬にみられる体全体が明るい茶色をしたアトリ科の鳥。都市公園などでも普通にみられる。

大きさ	全長約 19cm
生活場所	落葉広葉樹林や雑木林に生息する。
見られる時期	奈良県では主に冬季にみられる（冬鳥）。
食べもの	植物の種子を食べる。
繁殖期	5月～8月頃
見分け方	首元が灰色でくちばしや目の周りが黒い。風切羽は黒に青が混じっていて、広げると白い線が入っている。くちばしは鉛色の部分と淡いピンク色の部分がある。



## イカル *Eophona personata*

脊椎動物門 > 鳥綱 > スズメ目 > アトリ科

### 種の特徴

### 重要種

奈良県 RDB の郷土種に指定されており、法隆寺のある斑鳩（いかるが）町の名の由来となっている。

大きさ	全長約 23cm
生活場所	平地～山地の落葉広葉樹林に生息する。
見られる時期	1年中みられる（留鳥）。
食べもの	木の実や種子を食べる。
繁殖期	5月～7月頃
見分け方	コイカルに似るが、翼にある白斑の位置、頭部の黒色部の範囲等が異なる。



## アオジ *Emberiza spodocephala*

脊椎動物門 > 鳥綱 > スズメ目 > ホオジロ科

### 種の特徴

### 重要種

奈良県 RDB の絶滅危惧種、近畿 RDB のランク 3 に指定されている。

大きさ 全長約 16cm

生活場所 明るい林や草原に接した林のへりなどに生息。

見られる時期 奈良県では冬季にみられる（冬鳥）。

食べもの 草の実を食べる。

繁殖期 5月～7月頃

見分け方 下面に黄色味があるので、ノジコ、シマアオジと似るが、ノジコは下面に縦斑がなく、シマアオジは翼に白斑がある。



魚類



幼魚

## コイ *Cyprinus carpio*

脊椎動物門 > 硬骨魚綱 > コイ目 > コイ科

### 種の特徴

河川の中～下流域、湖などにおもに生息する。移植放流により各地に分布している。汚濁した環境にも比較的強い。淵や湛水域の存在の指標。

大きさ 全長約 60cm

生活場所 やや水深のある場所、幼稚魚は水際植物帯など。

見られる時期 1年中みられる。

食べもの 底生動物と泥上の底生付着藻類やその分解物。

産卵期 4月～6月頃

見分け方 口ひげが2対ある。大型の成魚は水面上からみると体形は流線形で、色は黒っぽく（飼育品種を除く）、背びれの幅が長い。



## ギンブナ *Carassius* sp.

脊椎動物門 > 硬骨魚綱 > コイ目 > コイ科

### 種の特徴

河川の中～下流域に生息し、淀みや淵を好む。  
淵や湛水域の存在の指標。

大きさ	全長約 25cm
生活場所	川の下流の淀みや支流の合流点に近い水域、平地の低湿地帯や沼地など。
見られる時期	1年中みられる。
食べもの	雑食性で底生動物および藻類など。
産卵期	4月～6月頃
見分け方	フナ類の中では体高が高い。尻びれ起点付近より後方で体高がすぼまる。



## オイカワ *Opsariichthys platypus*

脊椎動物門 > 硬骨魚綱 > コイ目 > コイ科

### 種の特徴

河川の中～下流域、湖などに広く分布し、流れのある瀬を好む。  
瀬と淵が保全された河川環境の指標。

大きさ	全長約 15cm
生活場所	河川の浅く開けた場所、平瀬から淵にかけて多い。
見られる時期	1年中みられる。
食べもの	付着藻類を中心に昆虫類も食べる雑食性。
産卵期	5月～8月頃
見分け方	体の側面に赤味を帯びた横斑が 7～10 個みられる。産卵期のオスには鮮やかな婚姻色があられ、頭部、臀部などに追星（おいぼし）がみられる。



## カワムツ *Candidia temminckii*

脊椎動物門 > 硬骨魚綱 > コイ目 > コイ科

### 種の特徴

河川の上～中流域に生息し、特に淵がある川を好む。  
瀬と淵が保全された河川環境の指標。

大きさ	全長約 15cm
生活場所	主に河川上・中流域の流れの緩やかな淵に多い。
見られる時期	1年中みられる。
食べもの	落下昆虫、水生昆虫の他、藻類も食べる雑食性。
産卵期	5月下旬～8月下旬頃
見分け方	オイカワに似ているが、体がやや太く、体の側面に暗藍色の太い1本の縦条があること、臀びれや尾鰭がやや黄色みを帯びることで区別できる。



## ヌマムツ *Candidia sieboldii*

脊椎動物門 > 硬骨魚綱 > コイ目 > コイ科

### 種の特徴

### 重要種

河川の中～下流域のワンド、用水路に生息する。  
奈良県 RDB の希少種に指定されている。

大きさ	全長約 15cm
生活場所	主に河川のワンドや用水路に生息する。カワムツよりも流れの緩やかな場所を好む。
見られる時期	1年中みられる。
食べもの	落下昆虫、水生昆虫の他、藻類も食べる雑食性。
産卵期	5月～8月頃
見分け方	カワムツに似るが、鱗が細かく、胸鰭と腹鰭の前縁が赤いことで見分けられる。



## モツゴ *Pseudorasbora parva*

脊椎動物門 > 硬骨魚綱 > コイ目 > コイ科

### 種の特徴

河川の中～下流域、池などに主に生息する。汚れた水にも比較的強い。淀みや水際植生の存在する河川環境の指標。

大きさ	全長約 8cm
生活場所	河川、用水路や細流の流れの穏やかな場所に多い。
見られる時期	1年中みられる。
食べもの	水草などに付着する動・植物、浮遊動物や底生生物。
産卵期	4月～8月頃
見分け方	類似種のシナイモツゴ、ウシモツゴは側線が終生不完全なのに対し、モツゴは成魚になると側線が完全になるので区別できる。



## ムギツク *Pungtungia herzi*

脊椎動物門 > 硬骨魚綱 > コイ目 > コイ科

### 種の特徴

### 重要種

河川の中～下流域に生息し、淀みや淵を好む。  
奈良県 RDB の希少種に指定されている。

大きさ	全長約 15cm
生活場所	主に河川中・下流域の淀みや淵に多い。
見られる時期	1年中みられる。
食べもの	動物食にかたよった雑食性、水生昆虫等。
産卵期	5月～6月頃
見分け方	口の先から尾鰭の付け根まで明るい青黒色の太いしまがある。



## タモロコ *Gnathopogon elongatus elongatus*

脊椎動物門 > 硬骨魚綱 > コイ目 > コイ科

### 種の特徴

河川の中～下流域の主に淀んだ水域に生息する。  
淀みのある河川環境の指標。

大きさ	全長約 10cm
生活場所	河川、用水路、浅い池沼など。
見られる時期	1年中みられる。
食べもの	水生昆虫、水草、浮遊動物など。
産卵期	4月～7月頃
見分け方	琵琶湖固有種のホンモロコが近縁種で、体の太さや、頭部のとがり具合などが異なる。



## カマツカ *Pseudogobio esocinus*

脊椎動物門 > 硬骨魚綱 > コイ目 > コイ科

### 種の特徴

河川の中～下流域に生息する。砂底、砂礫底の環境に多い。  
瀬と淵が保全された河川環境の指標。

大きさ	全長約 20cm
生活場所	河川や用水路の砂礫底の場所に多い。
見られる時期	1年中みられる。
食べもの	付着藻類を中心に昆虫類も食べる雑食性。
産卵期	5月～6月中旬頃
見分け方	ツチフキ、ゼゼラ類に似るが、ひげを持ち、唇に多くの突起を持つことで見分けられる。



## ドジョウ *Misgurnus anguillicaudatus*

脊椎動物門 > 硬骨魚綱 > コイ目 > ドジョウ科

### 種の特徴

### 重要種

河川の中～下流域や池、水田等に生息している。  
環境省 RL の準絶滅危惧に指定されている。

大きさ	全長約 12～18cm
生活場所	河川、用水路、水田などの泥底の上や中に潜る。
見られる時期	1年中みられるが春～秋によくみられる。
食べもの	底生動物全般。
産卵期	4月下旬～6月下旬頃
見分け方	体は細長く、10本の口ひげを持つ。体はうすい褐色。鱗はととても細かい。体表には粘液が多い。なお、中国大陸系統の外来個体群も分布を拡大している。



## ギギ *Tachysurus nudiceps*

脊椎動物門 > 硬骨魚綱 > ナマズ目 > ギギ科

### 種の特徴

### 重要種

河川の中～下流域に生息し、ヨシ帯や岩の割れ目に潜む。夜行性。  
奈良県 RDB の希少種に指定されている。

大きさ 全長約 25～30cm

生活場所 河川のヨシ帯や岩の割れ目に潜む。

見られる時期 1年中みられる。

食べもの 水生昆虫、甲殻類、小魚など。

産卵期 7月頃

見分け方 ギバチやアカザなどと似るが、体が黒っぽく、尾鰭が切れ込むことで見分けられる。



## カダヤシ *Gambusia affinis*

脊椎動物門 > 硬骨魚綱 > カダヤシ目 > カダヤシ科

### 種の特徴

特定外来生物

北米原産の外来種で、特定外来生物に指定されている。  
在来のメダカと競合し、影響が心配されている。

大きさ	全長約 3~5cm
生活場所	浅い止水域を中心にさまざまな場所に生息する。
見られる時期	1年中みられる。
食べもの	落下昆虫、プランクトン、藻類などを食べる雑食性。
産卵期	3月~10月頃（腹から仔魚を直接産む）
見分け方	メダカに似ているが、メダカより尾びれが丸く、尻びれの形がオスでは細長く、メスでは丸い。



## メダカ（ミナミメダカ） *Oryzias latipes*

脊椎動物門 > 硬骨魚綱 > ダツ目 > メダカ科

### 種の特徴

### 重要種

かつてはごく普通にみられたが、最近では生息数が減少している。  
環境省 RL の絶滅危惧Ⅱ類、奈良県 RDB の希少種に指定されている。

大きさ	全長約 4cm
生活場所	水たまりや流れのゆるい小川や水路、田んぼにすむ。
見られる時期	1 年中みられる。
食べもの	動・植物プランクトンや小さな落下昆虫。
産卵期	4 月上旬～10 月下旬頃
見分け方	尾びれや尻びれが角ばり、口は上向きで下あごがわずかに突き出る。オスとメスでは背びれ、尻びれの形がちがう。



## ブルーギル *Lepomis macrochirus macrochirus*

脊椎動物門 > 硬骨魚綱 > スズキ目 > サンフィッシュ科

### 種の特徴

特定外来生物

北米原産の外来種で、特定外来生物に指定されている。  
在来の魚の卵も食べることから影響が心配されている。

大きさ	全長約 25cm
生活場所	湖の沿岸や池沼、河川の下流域に主に生息する。
見られる時期	1年中みられる。
食べもの	動物プランクトン、甲殻類等を食べる雑食性。
産卵期	6月～7月頃
見分け方	体は平たく、体高が高い。体の側面に暗色のしま模様がある。えらぶたには黒色の突起がある。



## オオクチバス *Micropterus salmoides*

脊椎動物門 > 硬骨魚綱 > スズキ目 > サンフィッシュ科

### 種の特徴

特定外来生物

北米原産の外来種で、特定外来生物に指定されている。  
魚やエビ等を食べることから在来種への影響が心配されている。

大きさ	全長約 30～50cm
生活場所	湖沼や、河川下流域の淀みや堰でできた止水域。
見られる時期	1年中みられる。
食べもの	魚食性。
産卵期	4月下旬～8月上旬頃
見分け方	口は大きく、眼よりも後ろまでひらく。背びれは2枚あり、前のものは先が尖っている。体の横には暗色の斑点がある。



## ドンコ *Odontobutis obscura*

脊椎動物門 > 硬骨魚綱 > スズキ目 > ドンコ科

### 種の特徴

河川の中～上流域に生息する。特に淵や水際に草地があるところに多い。淵、水際植生、多様な河床材料の存在する河川環境の指標。

大きさ	全長約 25cm
生活場所	河川の淵を中心に生息する。
見られる時期	1年中みられる。
食べもの	肉食性。
産卵期	5月～7月頃
見分け方	腹びれは吸盤状でなく左右に分かれている。頭が大きく、下あごが上あごよりも前が出る。体は茶色で、暗色の斑紋をもつ。



## カワヨシノボリ *Rhinogobius flumineus*

脊椎動物門 > 硬骨魚綱 > スズキ目 > ハゼ科

### 種の特徴

流れのある環境を好み、主に瀬の石の下などに生息する。  
瀬や礫底の環境の存在を示す指標となる。

大きさ	全長約 6cm
生活場所	流水域の礫底に生息する。
見られる時期	1年中みられる。
食べもの	付着藻類や、小型の水生昆虫を食べる。
産卵期	5月～8月頃。
見分け方	腹鰭が吸盤状のハゼの仲間である。シマヒレヨシノボリよりも胸びれのスジの数が少なく、本種は15～17本（まれに18本）である。



## シマヒレヨシノボリ *Rhinogobius tyoni*

脊椎動物門 > 硬骨魚綱 > スズキ目 > ハゼ科

### 種の特徴

### 重要種

ヨシノボリ類の中では、止水的な環境を好む。  
環境省 RL の準絶滅危惧に指定されている。

大きさ	全長約 5cm
生活場所	ため池や河川の流れの緩やかな場所にすむ。
見られる時期	1 年中みられる。
食べもの	付着藻類や、小型の水生昆虫を食べる。
産卵期	5 月～8 月頃と思われる。
見分け方	腹鰭が吸盤状のハゼの仲間。眼から上あごまでの長さが短く、上あごよりも下あごが前に出る。カワヨシノボリとは胸びれのスジの数が異なる。



## ウキゴリ *Gymnogobius urotaenia*

脊椎動物門 > 硬骨魚綱 > スズキ目 > ハゼ科

### 種の特徴

### 重要種

奈良県では主にため池に生息し、個体数が少ない。  
奈良県 RDB の希少種に指定されている。

大きさ 全長約 13cm

生活場所 ため池や河川の流れの緩やかな淵やワンドにすむ。

見られる時期 1年中みられる。

食べもの 動物食。水生昆虫やエビ、小魚を食べる。

産卵期 5月～6月頃

見分け方 腹びれが吸盤状のハゼの仲間。口が大きく、眼の下までひらく。背びれは2枚あるが、前の背びれに黒い模様がある。

**その他の水生動物**



## カワナナ *Semisulcospira libertina*

軟体動物門 > 腹足綱 > 新生腹足目 > カワナナ科

### 種の特徴

流水がある比較的広い環境に生息する。  
地域の関心が高いゲンジボタルの餌として重要。

大きさ	殻の高さ約 3cm
生活場所	河川、細流、用水路などの砂礫底に生息する。
見られる時期	1年中みられる。
食べもの	藻類、落葉、ときに水生動物の死肉を食べる。
産卵期	5月～10月頃。
見分け方	細長い巻貝で、殻の巻数は約 10 層。よく似たチリメンカワナナとは体層（一番下の巻き）に縦スジ状の彫刻がないことで見分けられる。



## ミドリビル *Ancyrobdella smaragdina*

軟体動物門 > ヒル綱 > 吻蛭目 > ヒラタビル科

### 種の特徴

### 重要種

環境省 RL の情報不足に指定されている。

大きさ	体長約 2cm
生活場所	流れの緩やかな川底の石の表面や二枚貝の殻上に付着生活する。
見られる時期	不明
食べもの	吸血性種で、魚類や両生類の血液を吸う。
産卵期	不明
見分け方	体色は淡緑色～淡桃黄色。体は背腹面に扁平な矛先型。体表に突起はない。眼点は2対。口吻先端に鈎状突起をもつ。



## スジエビ *Palaemon paucidens*

軟体動物門 > 軟甲綱 > エビ目 > テナガエビ科

### 種の特徴

池や湖、沼等の止水域から河川まで広い環境で確認される。  
流れの緩やかな環境を示す指標。

大きさ	体長約 5.5cm
生活場所	沼、池、湖など、ときに汽水域にも生息する。
見られる時期	1年中みられる。
食べもの	雑食性。
産卵期	3月～8月頃
見分け方	体の色は透明で、黒褐色の縞模様がある。腹部の横縞は7本。脚の関節は橙黄色が目立つ。



## アメリカザリガニ *Procambarus clarkii*

軟体動物門 > 軟甲綱 > エビ目 > アメリカザリガニ科

### 種の特徴

### 特定外来生物

北米原産の外来種で、条件付き特定外来生物に指定されている。  
各地に広く定着しており、水質汚濁にも強い耐性がある。

大きさ	体長約 10cm
生活場所	河川、水田、用水路などの止水や流れの緩やかな泥底。
見られる時期	1年中みられるが春～秋によくみられる。
食べもの	魚や水生動物、植物などを食べる雑食性。
産卵期	6月～10月頃
見分け方	体の色は通常褐色～赤色（色素変異により青色や白色をしている個体もいる）、大きなハサミをもつ。国内で確認されるほとんどのザリガニがこの種である。



## サワガニ *Geothelphusa dehaani*

軟体動物門 > 軟甲綱 > エビ目 > サワガニ科

### 種の特徴

河川の上・中流域に生息し、砂礫や小石の多い環境を好む。  
水質汚濁に弱いとされ、良好な河川水質の指標。

大きさ	体長約 2.5cm
生活場所	河川上・中流域の、砂礫や小石の多い場所に生息する。
見られる時期	1年中みられる。
食べもの	魚や水生動物、植物などを食べる雑食性。
産卵期	6月～10月頃
見分け方	河川の中上流域にすむカニは数少なく、本種かモクスガニである。モクスガニとは甲羅の縁にトゲがないこと、ハサミに毛の束がないことで見分けられる。



※幼虫

## キイロサナエ *Asiagomphus pryeri*

節足動物門 > 昆虫綱 > トンボ目 > サナエトンボ科

### 種の特徴

### 重要種

サナエトンボの一種で砂泥底の環境を好む。  
環境省 RL の準絶滅危惧、奈良県 RDB の希少種に指定されている。

大きさ	体長約 3.5cm (幼虫)
生活場所	幼虫は平地～丘陵地の周囲に樹林のある砂泥底の緩やかな流れに生息する。
見られる時期	1年中みられる (成虫は5月～8月頃)。
食べもの	自分より小さな小動物を食べる。肉食性。
産卵期	5月上旬～8月上旬頃
見分け方	よく似た近縁種にヤマサナエがいるが本種はやや細長い。



## アオサナエ *Nihonogomphus viridis*

節足動物門 > 昆虫綱 > トンボ目 > サナエトンボ科

### 種の特徴

### 重要種

サナエトンボの一種で砂礫底の環境を好む。  
奈良県 RDB の希少種に指定されている。

大きさ	体長約 3cm (幼虫)
生活場所	砂礫底の河川に生息し、比較的水質のよい環境を好む。
見られる時期	1年中みられる (成虫は5月～7月頃)。
食べもの	自分より小さな小動物を食べる、肉食性。
産卵期	7月頃
見分け方	よく似た近縁種にオナガサナエがいるが、幼虫の側棘の数 (腹部第 2～9 節に棘あり)、触角の形 (本種は棒状) が異なる。



※幼虫

## コオニヤンマ *Sieboldius albardae*

節足動物門 > 昆虫綱 > トンボ目 > サナエトンボ科

### 種の特徴

サナエトンボ類は種により好む底質が異なる。同一地点から複数種の生息が確認された場合には多様な底質の存在を示す指標となる。

大きさ	体長約 3.1～3.5cm (幼虫)
生活場所	幼虫は丘陵地や山地を流れる河川などに生息する。
見られる時期	1年中みられる (成虫は5月～9月頃)。
食べもの	自分より小さな小動物を食べる。肉食性。
産卵期	6月～9月中旬頃
見分け方	幼虫は著しく扁平な広葉状あるいはうちわ状の特異な体形をしている。後脚が長いことも特徴である。



※幼虫

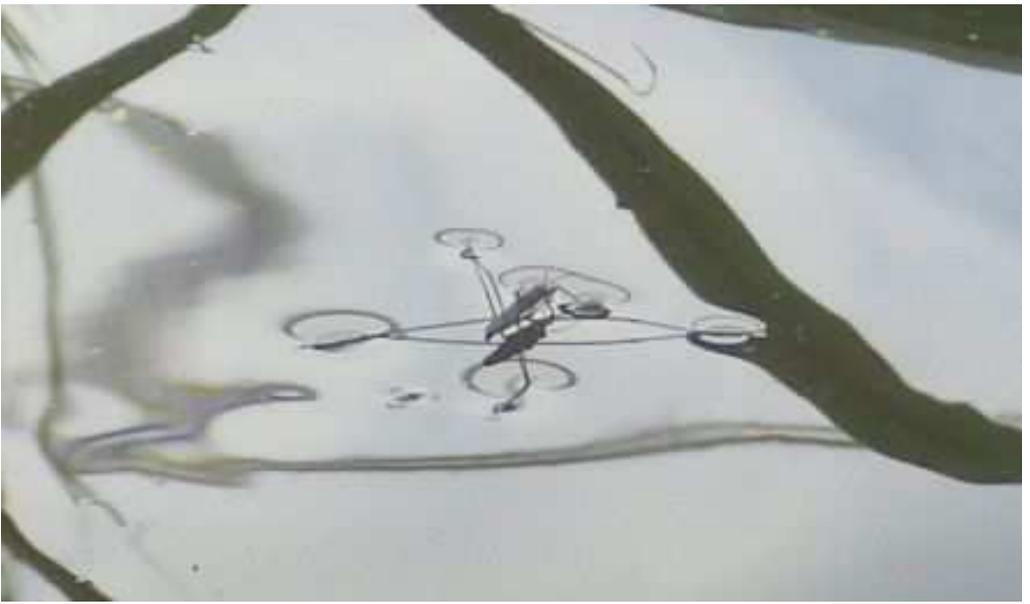
## シオカラトンボ *Orthetrum albistylum speciosum*

節足動物門 > 昆虫綱 > トンボ目 > トンボ科

### 種の特徴

池沼や水たまり、水田等広範な止水域に生息する。  
各地で最も普通にみられる。

大きさ	体長約 1.9～2.5cm (幼虫)
生活場所	幼虫は池沼や湿地、水田、溝川の止水域に生息する。
見られる時期	1年中みられる (成虫は4月中旬～10月頃)。
食べもの	自分より小さな小動物を食べる。肉食性。
産卵期	4月中旬～10月頃
見分け方	体には毛が多く、体の色は黄褐色。他によく似た近縁種がいるが、背に刺がないことで区別できる。



## アメンボ *Aquarius paludum paludum*

節足動物門 > 昆虫綱 > カメムシ目 > アメンボ科

### 種の特徴

池や川等の静水域の水面に浮いている。  
淀みや流れの緩やかな水域の存在を示す指標。

大きさ	体長約 1.1~1.6cm
生活場所	池や川などの静水域に生息する。
見られる時期	1年中みられる。
食べもの	陸・水性昆虫、プランクトンなどを食べる肉食性。
産卵期	4月~7月初旬頃
見分け方	体の色はほとんど黒色で、体の下には銀白色の軟毛を密生する。触角の第一節が長く、2, 3節を合わせたものより長い。



## ホッケミズムシ *Hesperocorixa distanti hokkensis*

節足動物門 > 昆虫綱 > カメムシ目 > ミズムシ科

### 種の特徴

### 重要種

主に池や沼などの止水域に生息する大型のミズムシ類。  
環境省 RL の準絶滅危惧に指定されている。

大きさ	体長約 1cm
生活場所	主に植物の豊富なため池に生息する。
見られる時期	1年中みられる。
食べもの	藻食性。
産卵期	近縁のオオミズムシでは早春と盛夏。
見分け方	大型のミズムシで、他の大型のミズムシ類とは腹側の後肢の付け根にある三角形の突起の形で見分けることが出来る。



## コオイムシ *Appasus japonicus*

節足動物門 > 昆虫綱 > カメムシ目 > コオイムシ科

### 種の特徴

### 重要種

主に流れが緩やかな浅い場所にいるカメムシの仲間。  
環境省 RL の準絶滅危惧、奈良県 RDB の希少種に指定されている。

大きさ	体長約 1.7~2cm
生活場所	小川、池沼、水田など流れの緩やかな場所に生息する。
見られる時期	1年中みられる。
食べもの	肉食性で、水性昆虫や貝類を捕らえて体液を吸う。
産卵期	4月~6月頃
見分け方	カメムシの仲間で口には口吻がある。体はまるく、平たい。色は黄褐色。前脚は鎌状になる。



※幼虫

## コガタシマトビケラ *Cheumatopsyche brevilineata*

節足動物門 > 昆虫綱 > トビケラ目 > シマトビケラ科

### 種の特徴

瀬の石面上に摂食のための捕獲網と固着巣をつくる。  
瀬及び礫質の底質が必要であり、このような環境の存在を示す指標。

大きさ	体長約 1.5cm (幼虫)
生活場所	幼虫は河川上流から中流の流れの速い瀬に生息する。
見られる時期	1年中みられる。
食べもの	広食性で主にデトリタス、付着藻類や動物質など。
産卵期	4月～9月頃
見分け方	体の後端の尾肢には長い毛の束がある。頭の後ろの胸（前・中・後胸）の背面はすべて濃色のキチン質でおおわれる。頭の先端はわずかにへこむ。



## コガムシ *Hydrochara affinis*

節足動物門 > 昆虫綱 > コウチュウ目 > ガムシ科

### 種の特徴

### 重要種

かつては平野部の水田に生息する代表的な水生昆虫であったが、近年は減少傾向にある。環境省 RL の情報不足に指定されている。

大きさ	体長約 1.8cm (成虫)
生活場所	水田や河川敷の水たまりなど不安定な止水域に生息。
見られる時期	1年中みられる。
食べもの	成虫は水草。幼虫は肉食性。
産卵期	6月頃
見分け方	背面は黒色で前翅には顕著な点刻がある。肢は赤みを帯びる。



※幼虫

## ゲンジボタル *Luciola cruciata*

節足動物門 > 昆虫綱 > コウチュウ目 > ホタル科

### 種の特徴

春～初夏に羽化し、生息地の河川周辺で夜間に発光飛翔する。  
地域住民の関心が高い種である。

大きさ	体長約2～3cm（幼虫）
生活場所	幼虫は流水中に生息する。
見られる時期	1年中みられる（成虫は5～6月頃）。
食べもの	カワニナ（幼虫）
産卵期	5月～6月頃
見分け方	同じく幼虫が水中にすむヘイケボタルとは、前胸背にひし形の黒い模様があることで見分けられる（ヘイケボタルは太い縦線）。

## 用語の説明

---

じゅうようしゅ

### **重要種**

法令等により指定された希少野生動植物種や国および都道府県等のレッドデータブック（レッドリスト）等に掲載された絶滅のおそれのある野生生物の種を示しています。

ならけん

### **奈良県RDB**

奈良県より 2017 年 3 月に発行された『大切にしたい奈良県の野生動植物種：奈良県版レッドデータブック 2016 改訂版』で、奈良県内に生息する貴重な野生生物種を選定・評価したものです。

かんきょうしょう

### **環境省RL**

環境省から公表されているレッドリスト（RL）のことで、生物学的な観点から個々の種の絶滅の危険度を評価し、リストとしてとりまとめられたものです。最新版は 2020 年 3 月に公表されています。

とくていがいらいせいぶつ

### **特定外来生物**

外来生物法において『外来生物（海外起源の外来種）であって、生態系、人の生命・身体、農林水産業へ被害を及ぼすもの、又は及ぼすおそれがあるもの』の中から指定された種のことです。

---

## 大和川水系(奈良県域)のいきもの図鑑

---

発行：奈良県県土マネジメント部河川整備課

住 所：〒630-8501 奈良市登大路町 30 番地

電 話：0742-278-7507 FAX：0742-22-1399

ホームページ：<https://www.pref.nara.jp/12730.htm>

---